

## 南のひと 06

写真・文=水野暁子

八重山で共に暮らす島人を撮影したシリーズ。暮らしの中から見つめる被写体に共感と敬意を込めて撮影している。



中学3年生の内盛正太郎くんは、5年生の頃から小学校を卒業するまでの2年間、毎週土曜日になると英語を学びに私の家に通ってきていた。

休む事なく毎週通ってくる彼の目的は、レッスンの合間に出すオヤツだったのかな?と思ったこともあった。先日「あの頃は、なぜ英語を習いたいと思ったの?」と聞いてみた。「興味があったから。ただ、やってみたいと思った」と素直な口調で答えた。

そんな彼は、今年沖縄タイムス社主催の「ホームステイ海外研修」の企画に応募し、見事八重山から5人の合格者の中のひとりとして選ばれた。この知らせを受けた時には、自分の事のように嬉しくなり「お! すごい。やったね!」と思わず声に出して喜んだ。

正太郎くんは、ひょうひょうとしているイメージがある。その気負わず肩の力が抜けた感じが彼の強みなのだろうと思う。ホームステイに飛び立つ前の夏休み始まりの頃に、「面接では緊張しなかった?」と聞くと、「余裕っす、とにかくいっぱい話した!」と少し得意げに答えていた姿が微笑ましく、またそんな彼を誇らしく思った。

先月、正太郎君のシアトルホームステイ体験を綴った文が八重山毎日新聞に掲載された。その中で「僕は将来外国で暮らしたいと思っているので～」と書いていたのが印象的だった。

19年前、ニューヨークから竹富島に移り住んだ私に、「こんな小さな島に移り住んでもったいない」とあたかも世界から取り残される可哀想な人というような言葉を向ける大人がたくさんいた。そんな彼らに、こんな小さな南の島から世界を目指す青年がいる事を知らせたい。そして彼らに「余裕っすよ」とひとと言お見舞いしたい。

水野暁子 みずのあきこ

1973年千葉県に生まれる。1986年に家族とアメリカへ渡る。1996年 School of Visual Arts (New York) を卒業。1999年に竹富島に移住。現在子育てをしながら撮影活動中。

- 石垣島写真美術館 Mira にて、「南のひと」シリーズより11点の作品を展示中。2019年1月15日まで。
- 島人へのインタビューをまとめて紹介している YouTube チャンネル「八重山ライブラリー」も。